

福島県立医科大学附属病院

# 専門研修プログラム 募集案内



公立大学法人  
**福島県立医科大学附属病院**  
Fukushima Medical University Hospital



## 専門医を目指す方へ

Fukushima Medical University Hospital



専門医研修管理委員会委員長  
(福島県立医科大学附属病院長)

**竹石 恭知**

当院では、平成30年度からスタートした現行の専門医研修制度において、19ある全ての基本領域で基幹施設としてプログラムを運用しておりますので、全ての基本領域で専門医の資格を取得することができます。また、各プログラムでは、大学附属病院のほか、県内外の連携施設等と密に連携して研修を行うため、指導体制や専門医取得に必要な症例数の面でも充実した研修環境が整っており、各人にとって最適な研修計画を策定し、迅速に専門医資格が取得出来るよう配慮されています。

さらに、専攻医は、大学院・大学院研究生の併願が可能なため、医師として勤務しながら、多くの専攻医が医学博士号 (PhD) を並行して取得しています。

このように、当院には、医師としての基礎を築く最適な研修プログラム、充実した施設・研修環境、優れた研究環境、優しく親身にサポートしてくれる先輩達が揃っており、自身の望むキャリアパスが創造できます。出身大学に関係なく、個々の目標達成に向けて、スタッフ一同が全面的に支援しますので、多くの方に安心して当院での専門医研修を選択していただき、専門研修プログラムにより目標とする専門医資格を着実に取得され、活躍されることを期待しています。

## 病院案内

Fukushima Medical University Hospital

### 病院の特徴

#### 健康を支え、心温まる医療を実践

当院は、医科大学附属の総合病院として、39診療科・778床の施設を有し、先進医療の充実や診療体制の整備に努めています。こうした中、1日の平均入院患者数569名(令和4年度)、1日の平均外来患者数は、1,578名(令和4年度・入院中外来受診者を除く)を数え、県民の皆さまに広く利用されております。附属病院ではこれからも地域を照らし、多様化する医療に対する県民の皆さまの期待に応えてまいります。

【常勤医師数】**390名**(令和5年4月1日現在) 【一日平均入院患者数】**569件**(令和4年度) 【一日平均外来患者数】**1,578件**(令和4年度)

【救急車搬入患者数】**2,227名**(令和4年度) 【救急外来患者数】**9,071件**(令和4年度) 【手術件数】**6,303件**(令和4年度)

### 診療科目

循環器内科／血液内科／消化器内科／リウマチ・膠原病内科／腎臓・高血圧内科／糖尿病・内分泌代謝内科／脳神経内科／呼吸器内科／漢方内科／腫瘍内科／総合内科／呼吸器外科／消化管外科／肝胆脾・移植外科／乳腺外科／小児外科／甲状腺・内分泌外科／甲状腺・内分泌内科／心臓血管外科／脳神経外科／整形外科／形成外科／産科／婦人科／小児科／小児腫瘍内科／眼科／皮膚科／泌尿器科／副腎内分泌外科／耳鼻咽喉科／頭頸部外科／心身医療科／放射線科／放射線治療科／核医学科／麻酔・疼痛緩和科／病理診断科／歯科口腔外科／救急科／リハビリテーション科

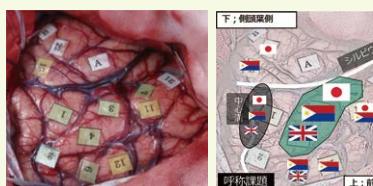
## Topics

福島で経験しませんか？

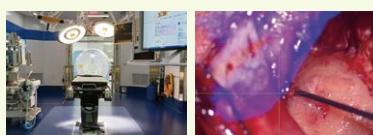
### 覚醒下手術と術中MRIで高次脳機能を守る

皆さん、覚醒下手術という脳神経外科の手術をご存知ですか。脳の中に染み込むように発育する脳腫瘍を切除する際に、言語機能など高次の脳機能を守りながら、病変を有效地に、最大限切除するために用いられる手術方法です。文字どおり、患者さんには、手術中に「覚醒」してもらい、スタッフと話をしたり、動作をしたりしながら、脳を電気刺激して機能の存在部位を確認、患者個人の脳の機能地図を作り、手術中に機能を評価して、これを守るよう手術を進めます。さらに、福島医大病院では、何と！手術室内に超高磁場MRI装置が設置してありますので、これを用いて覚醒下手術の際に、画質の良いMRI画像を撮像して、病変の切除の具合、安全の確認も行います。それだけでなく、このシステムを使うと、手術中に正確なナビゲーションの支援を受けることも可能になります。つまり、術中MRIで撮像した最新の画像をナビゲーションシステムに取り込んで、脳神経外科医に、腫瘍の位置や重要な脳機能に関わる脳内の解剖構造の位置を、正確かつリアルタイムに教えてくれるのです。手術は、手術顕微鏡を用いて行われますが、その顕微鏡の画面の中に、上記の様々な情報が直接現実のイメージと融合されて表示される「拡張現実(Augmented Reality; AR)」機能が搭載されて威力を発揮しています。高次脳機能は、ヒトが「人」として生きるために大切で複雑な機能です。

まだまだヒトの脳の機能は未解明なことが多いのですが、患者さんの個人の社会背景・生きがいなどに基づいて、それぞれの人生にとって重要な機能を、高次の脳機能を含めて守る取り組みは、患者さんの人生を守る意味でも、さらに脳科学を発展させるためにも、大変やりがいのある分野です。我こそは、とう皆さん、我々のチームに加わりませんか。



【図1】3つの言語を話すマルチリンガル症例の覚醒下手術(左:術野の写真 右:模式図)／日本語、英語、タガログ語の3つの言語をすべて守るために、覚醒下手術で言語の脳地図を確認しながら手術を行った。術野(左図)におかれた数字のタグは、電気刺激によって何らかの所見が認められた部位。右図は、各言語の機能が認められた場所を模式的に示したもの。



【図2】術中MRIを備えた手術室(左)と手術顕微鏡映像(右)／手術室に超高磁場術中MRI装置(左写真中央)が備えられており、手術中に脳の状態を評価することができる。さらに、ナビゲーションシステムと連動することで、脳神経外科医が見る手術顕微鏡映像の中に、重要な脳解剖構造や病変運動機能に関わる脳内の神経線維束が青色で表示されているところ。

脳神経外科学講座 主任教授 藤井 正純



## 専門研修プログラムの特徴

Fukushima Medical University Hospital

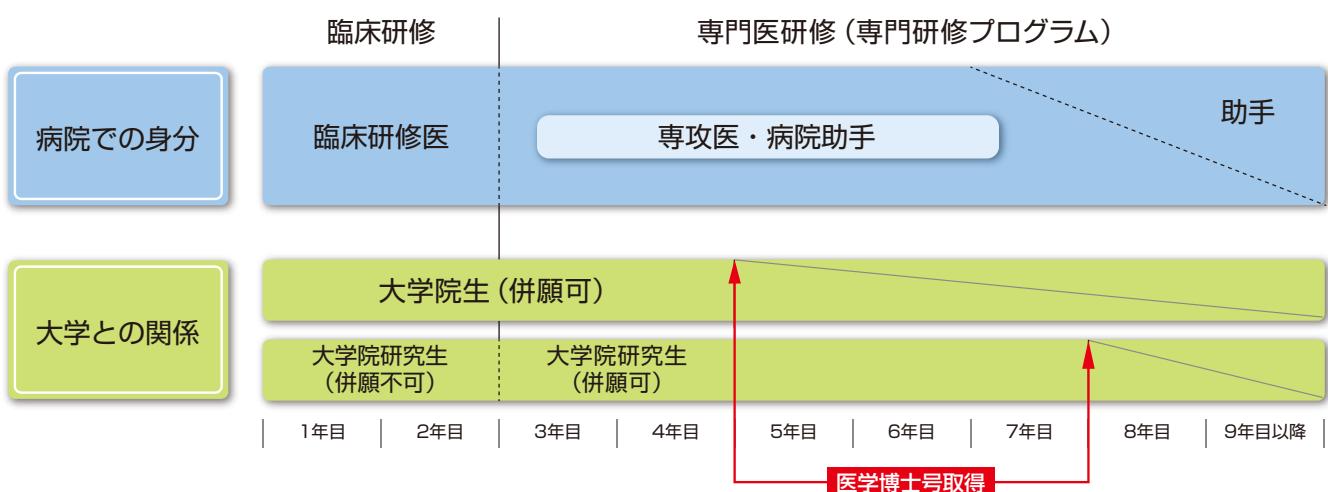
- 1** 19ある全ての基本領域で基幹施設として専門研修プログラムを運用しています。
- 2** 希望する専門医資格が取得できるよう、基本領域の各プログラム責任者等と相談の上、最適な研修計画に基づき研修を行います。
- 3** 専門医資格取得に必要な症例・症候等を確保するため、当院と連携施設で研修を行います。連携施設は原則各学会の認定施設です。
- 4** 大学院・大学院研究生の併願が可能であるため、医師として働きながら、大学院教育を受けることで、より充実した専門医研修が可能です。多くの専攻医が医学博士号(PhD)を並行して取得しています。
- 5** 医師のキャリアを見据えた幅広い一貫した教育を支援していきます。



## 当院の研修制度の全体像

Fukushima Medical University Hospital

当院では臨床研修期間中から大学院との併願が可能です。医師として働きながら大学院教育を学べます。  
卒業時には医学博士号(PhD)が授与されます。



## Message

福島で研修しませんか？

### 呼吸器内科で福島の医療に貢献したい

私は、福島県立医科大学で6年間の大学生活を過ごしました。本学卒業後は、どのような専門に進んでも医療に貢献できる、総合力のある医師を目指して、福島赤十字病院で研修を行いました。福島赤十字病院は、福島県立医科大学と連携しており、二次救急疾患の研修が充実しているため、一般診療・当直に必要な幅広いスキルを学ぶことができました。専攻医となった今でも、日赤で学んだ知識が大変役立っています。

今年の春から呼吸器内科に入局し、熱く優しく頼もしい上級医の先生方のもとで学ばせていただいております。私は、内科医としての基礎を固めつつ、呼吸器内科医としてspecialityを構築していくにあたり、本学の内科プログラムは大変充実していると考え、当プログラムを選択いたしました。実際、呼吸器内科医として実

臨床で経験を積みつつ、CV挿入や抗菌薬使用の講習会など、内科医としての総合的な技術を学ぶことができており、恵まれた環境で日々研鑽させていただいておりました。

また、安定した待遇で、大学院・大学院研究生として学べることもこのプログラムの魅力の一つです。私は学生時代より、MD-PhD生として基礎病理学講座に所属し、研究に携わさせてもらっていました。医師としてのスキルアップのサポートも手厚く、医局の先生方も臨床と研究を両立させており、研究を介した医療貢献に役立っているようです。

アレルギー疾患や膠原病、腫瘍など幅広い疾患を扱う呼吸器内科で、福島の医療に貢献できるよう、今後とも精進して参ります。



専攻医1年次(呼吸器内科) 鈎金 莉奈



## 大学院アドミッションポリシー

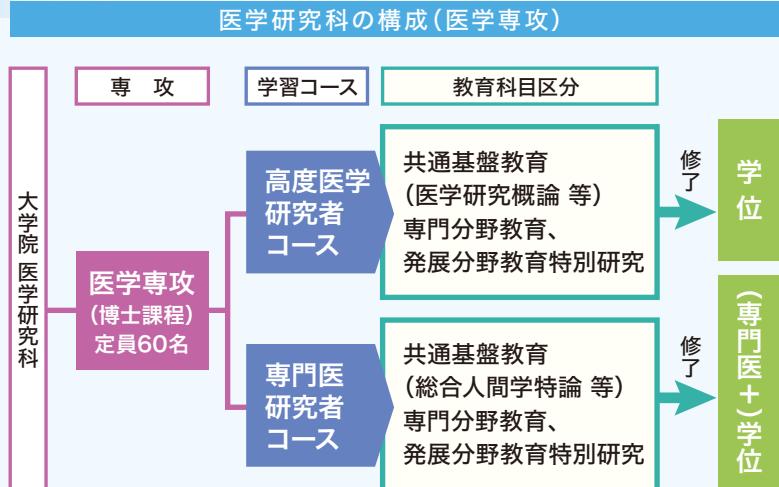
本医学研究科医学専攻では、高い倫理観と豊かな人間性を備え、共に新しい医学を創造し、社会に貢献する次のような学生を求めています。

- ① 医学・医療に関する高度な専門的知識・技術の修得を目指す人
- ② 新たな分野に踏み込み、先駆的な研究活動を志す人
- ③ 地域の医学・医療水準の向上を目指し、指導的な役割を担おうとする人
- ④ 大学・研究機関の指導者、研究者として活躍する意欲を持つ人
- ⑤ 医学・医療の分野で、世界に飛躍しようとする熱意を持つ人

## 大学院医学研究科の概要

大学院医学研究科は、医学・医療の発展に自立して寄与することができる研究者及び専門職者を育成するとともに、新しい医学の創造を行うことを目的とします。

先進的で高度な医療を実践できる医療人やこれらの医学・医療をリードする研究者を養成・確保しながら、優れた研究成果を県民医療に還元し、本県医療水準の向上と県民の健康増進に一層寄与できるよう、基礎医学と臨床医学の壁を越えた総合的・学際的な教育研究を推進します。



## 医学専攻(博士課程)の概要 修業年数4年

本専攻では、医学部を卒業した学生を中心に、医学部以外からの学生にも広く門戸を開放して医学を極めることを目的とすることから、専攻の名称を「医学専攻」(Graduate School of Medicine)とし、学位に付与する専攻分野も「医学」とします。

本専攻に入学する学生は、入学時点で、高度医学研究者コースと専門医研究者コースのいずれかを選択します。

前者のコースは、医学研究者になることを目標とし、将来の医学を支え、新たな医学の創造ができるような人材の育成を目的とします。後者のコースでは、臨床研修を終え、専門医研修を受ける学生を主な対象として、高度で専門的な臨床能力と、医療の現場から研究する能力を兼ね備えた臨床医を育成することを目的とし、そのため必要な科目を整備しています。

## Message

福島で研修しませんか?

### 出身大学に関係なくどんな方でも丁寧な指導が受けられる

福島県立医科大学附属病院の整形外科専攻医になり、早くも2か月が過ぎようとしています。新しい環境での勤務にまだ慣れず、診療に対して研修医時代よりも大きな責任を負っていることを実感しています。その中で、優しく熱心にご指導してくださる上級医の先生方がいて、まだまだ出来ないことばかりですが、少しづつ成長している自分を感じることが出来ています。

私は整形外科医である父の姿を見て育ち、昔から漠然と自分も同じ道に進むのだという思いがありました。初期研修で整形外科を経験し、全身の運動器を扱う多様さに魅力を感じ入局を決めました。実際に整形外科での勤務が始まると、想像していたよりも忙しい日々が待っていました。病棟業務や手術をはじめ、一般外来や救急外来、カンファレンスの準備など日々こなさなくてはならない業務が目白押しでした。しかし当院では優しく頼れる先生方ばかりで、多くの指導を受けることができます。



私は他大学の出身ではありますが、専門研修を行なうにあたり出身大学は関係なく丁寧にご指導いただけており、どんな方でも受け入れられる準備が整っています。

福島県立医科大学附属病院には専門医を目指すうえで最適なプログラムや充実した研修環境が整っており、密度の濃い専門研修を行うことが可能です。福島県で働きたいという方、充実した専門研修を行ないたい方は、ぜひ当院の専門研修プログラムを選択してみてはいかがでしょうか。迷っている方はぜひ一度、見学に来られて当院や医局の雰囲気などを実際に感じていただければと思います。皆様と働けることを心よりお待ちしております。

専攻医1年次(整形外科) 見城 剛史





## 専門医制度について

Fukushima Medical University Hospital

当院では、平成30年度からスタートした専門医研修において、19全ての基本領域で、基幹施設として基本領域プログラムを運用しています。

当院において専門医研修を開始すれば、全ての基本領域・サブスペシャルティ領域の専門医を取得することができる予定です。

\*日本専門医機構において、基本領域19専門医制度とサブスペシャルティ領域23専門医制度が認定されていますが、この図のサブスペシャルティ領域は最終決定しているものではありません。

### 【サブスペシャルティ領域】〈3年間〉※最大2年間は基本領域と重複可

- 消化器内科(肝臓内科、消化器内視鏡) ●循環器内科 ●呼吸器内科 ●血液内科
- 内分泌代謝・糖尿病内科(内分泌代謝内科、糖尿病内科) ●脳神経内科
- 腎臓内科 ●膠原病・リウマチ内科 ●アレルギー ●感染症 ●老年科 ●腫瘍内科
- 消化器外科 ●呼吸器外科 ●心臓血管外科 ●小児外科 ●乳腺外科
- 内分泌外科 ●放射線治療 ●放射線診断

※その他の領域についても現在日本専門医機構で要件などを検討中

### 【基本領域(19領域)】〈3~5年間〉

- 内科 ●外科 ●皮膚科 ●産婦人科 ●耳鼻咽喉科 ●脳神経外科 ●麻酔科
- 小児科 ●精神科 ●整形外科 ●眼科 ●泌尿器科 ●放射線科 ●救急科
- リハビリテーション科 ●形成外科 ●病理 ●臨床検査 ●総合診療

### 【臨床研修】〈2年間〉

#### 【サブスペシャルティ連動の専門医研修】





# 令和6年度 専門研修プログラムの募集について

Fukushima Medical  
University Hospital

## 1 応募資格

### (1) 医 師

医師法第16条の2第1項の規定による2年間の臨床研修を修了または令和5年度末までに修了見込みである者

### (2) 歯科医師

歯科医師法第16条の2第1項に規定する1年間の臨床研修を含め、2年間の歯科医師臨床研修を修了または令和5年度末までに修了見込みである者

## 2 募集人員・研修期間

各領域の専門研修プログラムが定める採用枠及び期間とします。原則として令和6年4月1日より研修を開始し、研修期間のうち1年以上は当院において研修を行います。

## 3 専攻医登録システムへの登録

当院の専門研修プログラムを選択する際には、日本専門医機構が定める期間内に、専攻を希望する基本領域学会（総合診療は日本専門医機構）のホームページを通じて、専攻医登録システムにより、希望するプログラムへの登録を必ず行ってください。

## 4 専門研修プログラムの選択

(1) 応募者は、「専門研修プログラム一覧（基本領域）」から希望するプログラムを選択し、願書に記入してください。サブスペシャルティ領域については、別途お調べください。

### 《専門研修プログラム一覧（基本領域）》

内科、外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、産婦人科、小児科、眼科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、精神科、放射線科、麻醉科、病理、救急科、リハビリテーション科、臨床検査、総合診療

(2) 各プログラムの詳細な内容については、福島県立医科大学附属病院ホームページを参照してください。  
(<http://www.fmu.ac.jp/home/anzen/kouki/>)

## 5 手続

### (1) 書類提出期間

令和5年9月1日（金）から令和6年1月31日（水）まで

### (2) 提出書類

次の書類を、下記提出先へ、郵送（書留郵便）、またはご持参ください。

- ア 令和6年度福島県立医科大学附属病院専門医研修願書  
[様式1・A4サイズ]
- イ 履歴書[様式2・A4サイズ]（上半身写真、3×4cm、無帽、正面向き、3か月以内に撮影したものを貼付）
- ウ 医師免許証又は歯科医師免許証の写し

### 【注意事項】

- 1 ア、イの氏名、生年月日は戸籍のとおり正確に記載し、署名、押印もれのないように注意してください。
- 2 ア、イの氏名欄は自署で記載してください。それ以外は打ち込みで作成することも可能です。

3 ア、イは福島県立医科大学附属病院ホームページからダウンロード可能です。  
<https://www.fmu.ac.jp/home/anzen/kouki/>

- 4 ア、イに記載した内容について、書類提出後の年度末までに変更があった場合、直ちに下記の事務担当にご連絡ください。
- 5 ウはA4サイズに縮小し、白黒で複写して提出してください。
- 6 ウは当院で臨床研修を修了見込あるいは修了済みの方は提出不要です。

## 6 選考方法

- (1) 各プログラム責任者等が選考面接を行い、各プログラム研修管理委員会の審議を経て合否が判定されます。
- (2) 選考結果は、日本専門医機構が運用する専攻医登録システムを通じて本人宛に通知されます。

## 7 その他

専門研修プログラムの募集に当たっては、日本専門医機構が運用する専攻医登録に即して、適宜適切に対応いたします。

## 8 処 遇

当院で非常勤の専攻医として勤務する場合（参考：令和5年度）

- ① 身分：専攻医
  - ② 職務：病院における診療業務の他に、臨床研修医の指導補助
  - ③ 勤務日数：月17日以内
  - ④ 給与：日額15,400円、通勤手当、超過勤務手当、宿日直手当、その他各種業務手当
  - ⑤ 有給休暇：10日間（1年目）
  - ⑥ 各種保険、託児所完備
- ※連携施設での身分、給与等は、各施設が定めるところによります

### ○ 病院見学のご案内

■ 当院では、病院見学を随時受け付けています。

県外臨床研修病院に勤務している臨床研修医を対象として、旅費の助成を行っています。

○ 福島県立医科大学附属病院  
ホームページ

<https://www.fmu.ac.jp/home/anzen/kouki/>



【提出先・お問合せ先】

**福島県立医科大学附属病院**  
**臨床医学教育研修センター**

事務担当 石田

〒960-1295 福島市光が丘1番地

E-mail : [cmecc@fmu.ac.jp](mailto:cmecc@fmu.ac.jp)

Tel.024-547-1713(直通) Fax.024-547-1715